

コロナ防ぐヒント

視察する奥ノ木信夫市長(左)と川口市出身の新藤義孝衆議院議員(右)



「川口市市産品フェア」開催

埼玉県川口市はSKIPシティ(川口市)で「川口市市産品フェア 2020」を開いた。「コロナを防ぐヒントがある」をサブテーマに新型コロナウイルス感染症対策特設展示コーナーを設け、市内企業の対策製品を紹介した。6回目の開催で鋳物や機械、サービス関連など121企業・団体が出展した。

開会式では奥ノ木信夫川口市長が「新型コロナ対策製品の特設ブースは医療現場や商店などの需要に応える製品を集めており、ぜひ見てもらいたい」とあいさつ。梱包資材を手がける和光紙器の本橋志郎社長は「(今回出展した)新型コロナ対策製品が少しでも人の役に立てばうれしい」と話した。(さいたま)

奥ノ木市長は「25年ほど前、県は川口市に県営防災公園を造る計画があった。20秒の用地を見込み、川口市は12秒を先行取得したが、その後計画

知事に要望する4市長ら。左から、浅井草加市長、奥ノ木川口市長、大野知事、菅原戸田市長、頼高藤市長(7日、県庁)



が頓挫した。その土地がいまに眠っている。今日は最後のお願いに来た」と決断を迫った。頼高市長は「埼玉は水泳王国であるのに国際大会ができるプールがないのは残念。国際プールは県南共通の願い」と語った。奥ノ木市長によると、県の防災公園構想は前回埼玉国体の2004年ごろの完成を見込んでいたが、その後頓挫していた。川口市は、国際プールは現在ある市立北スポーツセンターと神根西公民館を含んだ複合施設として組み込む案を希望する予定だ。(岸鉄夫)



令和2年10月8日

日刊 THE NIKKAN 工業新聞 KOGYO SHIMBUN

11月16日 月曜日 2020年(令和2年)

仮放免者就労「可能に」

クルド人問題 川口市長、法相に要望書

川口市の奥ノ木信夫市長は23日、上川陽子法相と法務省で面会し、同市で暮らす多数のクルド人が国の入国管理制度によって収容施設から「仮放免」という立場に置かれ、就労が認められず困窮しているとして、仮放免者の就労を可能にする制度の創設を求める要望書を提出した。上川氏は「深刻に受け止めている」と応じた。



上川陽子法相(左)に要望書を手渡す奥ノ木信夫川口市長(右) 23日午後、法務省

を認める制度を構築するよう求めた。健康保険などの行政サービスについても、仮放免者に提供する可否を国の責任で判断することを要望した。提出後、奥ノ木市長は記者団に「国の支援があつて初めて市としても対応できる。市内で生活を送っている仮放免者が多くいるので、何とかすることが必要だ」と語った。

在日クルド人を支援している市民団体「クルドを知る会」代表の松沢秀延さん(72)は、市の要望活動を「非常に評価できる」とし、「就労を認めれば、仮放免者も納税などの義務を果たすことができるようになる。見て見ぬふりをするのではなく、彼らが日本に貢献できる仕組みを作ることが大切だ」と訴えた。(竹之内秀介、写真も)



令和2年12月24日